保育計画成果報告書

法人名等	学校法人　植草学園
施設名	植草学園このはの家
報告者（役職）	中村　浩子(園長)
住所・連絡先	千葉県千葉市中央区弁天１－２７－４
	☎　　０４３－３０６－８７９７ E-mail　konoha@uekusa.ac.jp

○タイトル(保育計画)

元気に遊ぼう　～　日常の生活や遊びの中から、豊かな心を育てる家庭的保育　～

○主な助成備品

ウエイブバランス平均台、レインボーバランスストーン、ジャンプ＆スプリングマット ノンスリップカラーマット、移動式鉄棒

1. 保育計画策定の目的

植草学園このはの家は、0 歳児から 2 歳児の子ども達 13 名が居住宅を改装した一軒家で家庭的な小規模保育を行っています。植草学園の建学の精神【徳育教育＝心の教育】を保育の基本として、一人ひとりの子どもの最善の利益を考慮し、人格形成の基盤と未来を拓く力を培う園として、一人ひとりの発達過程に応じ、乳幼児期にふさわしい体験が得られるよう生活や遊びを通して総合的に保育を行っています。

元気に登園してきた子ども達は、午前 9 時頃には広い園庭へと出て遊び始めます。おやつ後も園庭で築山を昇り降りしたり、追いかけっこをしたり探索等思い思いに外遊びを楽しんでいます。雨天時は、室内で静的な遊びと動的な遊びとを工夫しながら組み立て展開しています。広い室内空間(遊戯室)がないので遊具設定は、ぶつからないように安全面を考えて工夫しています。

2019 年 4 月に開園し、安定した保育が行われるようになってきた今日、改めて一人ひとりの子どもが心身ともに健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、生きる喜びと力を育むことを基本として、その健やかな育ちを支えているか（全国保育士倫理綱領２子どもの発達保障から）を問いかけ、“乳児から 2 歳児までは、心身の発達の基盤が形成される上で極めて重要な時期である”ことを職員は 3 歳未満児の保育の意義を認識しました。そして令和 3 年度の園内研修では、「3 歳未満児の運動発達について」をテーマにして学び合いました。提供を受けた運動遊具が更に魅力ある保育環境になるように、子どもの発達過程と目の前にいる子どもの姿をしっかりと捉えた取り組みを行っています。

2. 具体的な実施内容

園内研修では、0 歳児から 2 歳児の子どもが身につけてほしい力は何か、どのような経験をすることで運動発達に繋がるのか等、保育士は色々な遊びを提案し、そして運動遊具を設定して子ども達の反応や反省点を出しました。

【ウエイブバランス平均台とレインボーバランスストーン】

凹凸ある平均台を足の指先にぐっと力を込めながら歩んだり、バランスを保ちながら渡ったり、大きさの異なるストーンを這い這いで渡ったりしています。「落ちないようにね！ワニに食べられないようにね！」等、お話の世界に入り込んで楽しむこともあります。

雨天時や猛暑時、寒くて戸外遊びが出来ない時に運動遊具を設置し活用していますが、部屋の構造上、ロッカーや壁面すれすれに細長く設置せざるを得ない状況です。また運動遊具の片付けスペースは 2 階にあり、階段の上り下りで出し入れは簡単ではない状況です。素晴らしい運動遊具をもっと有効活用するにはどうしたらよいのだろうかと話し合いました。2 セットずつある遊具を同時に使用する広さはないため、1 セットは園庭でいつでも簡単に出し入れしやすくすることで経験を増やせるのではないかと外倉庫に片づける場所を設けました。芝生の上においてみると安定性はありました。また子どもと一緒に考えながら組み立てることも出来て、より意欲的に取り組む姿が見られ遊具の活用頻度は高まりました。

真夏、室内での魚釣り遊びです。ウエイブバランス平均台が池の縁になりました。ウエイブの上に立ち片手に竿を持ってバランスを取りながら魚釣りをしています。足指・足底に力を込めています。またある時は、へび鬼のように双方から進んできて対面した友達とジャンケンをしたりとゲーム遊びとしての活用もしてみました。

保育士のアイディアで楽しく遊具が使われ、子ども達の良い刺激や経験となっています。

【ジャンプ＆スプリングマット】

ウエイブバランス平均台やレインボーバランスストーンと一緒に組み合わせて使用しています。スプリングが楽しくてジャンプしていますが、うまくバランスを取らないとよろけてしまいます。
繰り返しスプリングマットの上で飛ぶことで、体幹はしっかりとしてきています。

【ノンスリップカラーマット、移動式鉄棒】

マットを高く積み、両足ジャンプで飛び降りることを楽しむ2歳児。1歳児はマットの不安定な斜面を、全身に力を込めて慎重に踏ん張りながら昇り降りをしたりしています。無事に降りることが出来るとニッコリ笑顔です。0歳児はマットの上を寝転んだり、ゆらゆらしながらバランスをとって立ち上がったり、倒れてはまた繰り返し挑戦しています。

園庭には鉄棒や太鼓橋等握ったりぶら下がったりする遊具がないので，移動式鉄棒を活用しています。利用する際には、必ず下にマットを敷くことで安心して取り組むことが出来ます。鉄棒をしっかりと握りしめて１歳児はぶら下がりを楽しんでいます。ぶら下がることは腕力や握力が付くだけではなく、指の分化にも繋がると言われています。2 歳児の大きい子は、ぶら下がりだけでは物足りず、足を持ち上げようと腹筋や背筋、全身の筋力を使って挑戦しています。

3. その成果と評価

運動遊具は、小規模保育の家庭的な環境の中でもっと有効活用できないか、どの様な経験をすることで子どもの運動発達に繋がるのかの視点で話し合うことで、「室内で使うもの」の固定概念が外れ、園庭を使うことでより充実した設定ができることに気づき、成長発達のための遊びの工夫が想像豊かに広がり、保育士の意識改革につながりました。運動遊具の利用頻度は増え、やってみたいと思うような設定になり、主体的に遊びを楽しみ、運動遊びの経験を重ねることにつながっています。運動発達の成果について短期間で評価することは難しさがありますが、職員の意識改革は園庭利用にとどまらず室内設定にも工夫が見られ、遊びに大きく影響するものとなっています。全身の運動発達を促し、「もっとやってみたい」、「できたね」、またゲーム等の遊びに利用することで「友達と一緒で楽しいね」等、様々な気持ちを子どもと共有することで心の成長にも繋がっていると実感しています。

4. 今後の課題と展望

子ども達は、主体的に関わる遊びから様々な力を獲得していきます。遊びをより豊かにしていくための保育環境づくりは保育士の役割です。発達過程を踏まえ、子ども達の姿をしっかりと捉え、生き生きと遊べる様に環境を再構成していかなければなりません。

子どもを取り巻く環境の変化の中で、子どもの体力・運動能力は著しく低下していると言われています。豊かな遊び経験が更に展開されるために、その機会をより多く生み出すことが出来る様に毎日のミーティングで保育を話し、園内研修で学びを深め、保育の質の向上に繋げていきたいと思います。タイトル（保育計画）に掲げたように運動玩具を活用して元気に遊び、そして豊かな心が育つよう楽しい保育を取り組みたいと思います。

以上